

平成 14 年度学会発表・講演等一覧

[測 地 部]

- ◇地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会 平成 14 年 5 月 27 ～ 31 日
国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ・位相遅延を用いた測地 VLBI 解析：高島和宏
- ◇第 22 回南極地学シンポジウム 平成 14 年 10 月 10・11 日 国立極地研究所
 - ・南極地域成果集録の作成について：木村勲
- ◇測地学国際シンポジウム金沢 平成 14 年 10 月 28・29 日 金沢市観光会館
 - ・The synergy of VLBI and GPS in Japan：辻宏道
- ◇日本測地学会第 98 回講演会 平成 14 年 10 月 29・30 日 金沢市観光会館
 - ・国際 VLBI 観測データのグローバル解析：栗原忍
 - ・日本における Semi Dynamic Datum の可能性：辻宏道
 - ・絶対重力計 FG5 の相互比較（2）：西久美子
 - ・富士山における重力変化：平岡喜文
- ◇第 112 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会 平成 14 年 11 月 11 ～ 14 日 電気通信大学
 - ・広域 MT 固定連続観測システムを用いた地殻比抵抗モニタリング：佐藤秀幸
- ◇2002 年度 VLBI シンポジウム 平成 15 年 1 月 14 ～ 16 日 国立天文台
 - ・国土地理院の超長基線測量：高島和宏

[測 図 部]

- ◇第 31 回国土地理院技術研究発表会 平成 14 年 6 月 4 日 安田生命ホール
 - ・地形図のフルベクトル化による自在な地図表現の実現：大野裕幸
- ◇日本写真測量学会平成 14 年度年次学術講演会 平成 14 年 7 月 4・5 日 東京国際展示場
 - ・デジタルオルソ画像を利用した 2 万 5 千分 1 地形図作成の試み：飯田洋・矢来恵美・野口真弓
- ◇日本国際地図学会平成 14 年度定期大会 平成 14 年 7 月 24・25 日 日本大学文理学部
 - ・500 万分 1「日本とその周辺」の作成について：前島正吉
- ◇日本写真測量学会平成 14 年度秋季学術講演会 平成 14 年 11 月 14・15 日 大阪市
 - ・X バンド航空機 SAR による標高値の検証：飯田洋・渡辺信之・水野時夫・小荒井衛
 - ・相関処理方法の違いによる航空機 SAR/DEM の精度比較：野口真弓・飯田洋・水野時夫・佐藤潤
 - ・IKONOS ステレオペア画像を利用した 2 万 5 千分 1 地形図作成の試み
：小林大介・飯田洋・野口真弓
- ◇平成 14 年度国土交通省国土技術研究会 平成 14 年 11 月 19・20 日 品川 TOC
 - ・高分解能衛星画像を利用した 2 万 5 千分 1 地形図作成の試み：小林大介
- ◇第 21 回測量技術講演会 平成 14 年 12 月 11 日 京都テルサ
 - ・ベクトル型 2 万 5 千分 1 地形図の維持管理について：寺林敏之
 - ・リモートセンシングによる空間データ取得と国土管理への応用：佐藤潤
- ◇SAR Workshop 2003 平成 15 年 1 月 16・17 日 宇宙開発事業団地球観測利用研究センター
 - ・コヒーレンスの違いが DEM に与える影響の検証：野口真弓・飯田洋

[地理調査部]

- ◇日本国際地図学会平成 14 年度定期大会 平成 14 年 7 月 24・25 日 日本大学文理学部
 - ・航空レーザー測量による地形表現：関口辰夫・市川清次・佐藤浩
- ◇文部科学省・科学技術振興調整費「地震豪雨時の高速長距離土砂流動現象の解明」
(APERIF プロジェクト) 主催公開シンポジウム ―都市域斜面防災の新世紀―
平成 14 年 8 月 31 日～9 月 1 日 東京国際フォーラム・東京大学生産研究所
 - ・新世代のレーザースキャナ技術と斜面微地形判読による危険斜面抽出技術の開発：市川清次
 - ・航空レーザー測量による斜面計測とレーザー等高線による斜面微地形分類
：市川清次・小白井亮一・佐藤浩・関口辰夫
- ◇日本地質学会 109 年会 平成 14 年 9 月 16 日
新潟大学教育学部・新潟市芸術文化会館（りゅうとぴあ）
 - ・茨城県中部地域における更新統下総層群見和層の編年と古地理
：横山芳春・大井信三・中里裕臣・安藤寿男
- ◇日本雪氷学会 2002 年度全国大会 平成 14 年 10 月 8～11 日 山形テルサ
 - ・ニセコアンヌプリ周辺の雪崩地形と災害危険区域：関口辰夫・西村浩一
 - ・東北地方における雪崩地形の分布と形態的特徴：関口辰夫・秋山一弥
- ◇第 11 回 GIS 学会研究発表大会 平成 14 年 10 月 22～24 日 工学院大学
 - ・ヨハネスブルク・サミットと地球地図：政春尋志
- ◇日本国際地図学会第 172 回例会 平成 15 年 1 月 24 日 (財) 日本地図センター
 - ・ヨハネスブルクサミットにおける地球地図の取組と成果：政春尋志
- ◇平成 14 年度京都大学防災研究所発表講演会 平成 15 年 2 月 20・21 日 京都大学防災研究所
 - ・航空機搭載レーザースキャナによる危険斜面抽出のための微地形計測・解析技術の開発
：市川清次・関口辰夫・小白井亮一・佐藤浩・佐々恭二
- ◇日本地理学会 2003 年度春季学術大会 平成 15 年 3 月 29・30 日 東京大学本郷キャンパス
 - ・航空レーザースキャナを活用した地形分類に関する検討作業について：山後公二
 - ・高解像度衛星画像を用いた三宅島 2000-2002 年の地形変化解析：石浜佐栄子・関口辰夫
 - ・全層雪崩発生斜面の特徴と斑状の地形形態：関口辰夫・西村浩一・今西伸行
 - ・航空レーザースキャナを利用した地形のマッピング：関口辰夫・佐藤浩・市川清次・小白井亮一
 - ・3 万分の 1 火山土地条件図「磐梯山」を刊行：小西博美・吉岡貢・川島悟・佐藤宗一郎・市川清次

[地理情報部]

- ◇第 11 回 GIS 学会研究発表大会 平成 14 年 10 月 22～24 日 工学院大学
 - ・旧版地図を用いた道路ネットワークの時空間データの試作：明野和彦
- ◇日本情報地質学会シンポジウム 電子地質図の標準規格と品質管理 平成 14 年 11 月 29 日
東京芸術劇場
 - ・地理情報標準と ISO/TC211：明野和彦

【測地観測センター】

- ◇地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会 平成 14 年 5 月 27 ～ 31 日
国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ・ GEONET を用いた仮想基準点方式によるリアルタイム GPS 測位：西修二郎
- ◇日本測地学会第 98 回講演会 平成 14 年 10 月 29・30 日 金沢市観光会館
 - ・ 御前崎地方の上下変動について ― GPS と水準測量を比較して―：呉新華
 - ・ GEONET 新解析結果による座標値の季節変動成分の評価（その 2）：畑中雄樹
 - ・ 日本周辺の大気遅延勾配推定値の長期的評価：畑中雄樹
 - ・ 新 GEONET の構築 ―リアルタイム化・高精度化に向けて―：山際敦史
- ◇電子基準点シンポジウム 平成 14 年 12 月 11 日 安田生命ホール
 - ・ リアルタイム測位インフラとしての電子基準点 ―高度位置情報社会に向けて―：松村正一
- ◇GPS 気象学国際ワークショップ 平成 15 年 1 月 14 ～ 17 日 文部科学省研究交流センター
 - ・ 大気遅延推定と GEONET 解の精度：畑中雄樹
 - ・ 数値モデルによるマッピング関数が GPS 解の季節変動に与える影響について：山際敦史

【地理地殻活動研究センター】

- ◇第 113 回日本林学会大会 平成 14 年 4 月 1 ～ 4 日 新潟大学五十嵐キャンパス
 - ・ GIS を用いた崩壊要因分析のための地形解析手法の検討：岡松香寿枝・水越博子・中越信和
- ◇3rd ACES inaugural Workshop 平成 14 年 5 月 5 日 アメリカハワイ州マウイ
 - ・ Spatio-temporal slip distribution around the Japanese Islands deduced from Geodetic Data：鷺谷威
- ◇（社）日本リモートセンシング学会第 32 回学術講演会 平成 14 年 5 月 9・10 日
独立行政法人通信総合研究所
 - ・ 複合手法によるレーザースキャナー DSM からの 3 次元都市モデル作成：政春尋志
- ◇平成 14 年度砂防学会通常総会並びに研究発表会 平成 14 年 5 月 14・15 日
シェーンバッハ・サポー
 - ・ 地すべり地形抽出のための細密 DEM による傾斜区分：長谷川裕之・岡松香寿枝
- ◇地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会 平成 14 年 5 月 27 ～ 31 日
国立オリンピック記念青少年総合センター
 - ・ 日本の新しい混合ジオイドモデル、GSIGEO2000 の決定：黒石裕樹・安藤久・福田洋一
 - ・ 1986 年噴火以降の伊豆大島の地殻変動― 1986 年噴火の余効過程と次の噴火に向けての準備過程―
：村上亮・奥山哲・藤原智・飛田幹男
 - ・ 2000 年 7 月から 10 月にかけて西日本において広域イベントが発生していた可能性について
：村上亮
 - ・ GPS による太平洋プレート運動の推定 ―微小内部変形の検出に向けて―
：宗包浩志・松坂茂・宮崎真一
 - ・ 1918 年大町地震の断層モデルの再検討：鷺谷威
 - ・ 沈み込み帯の地震サイクルに伴う地殻変動から推定されるプレート境界断層挙動の多様性：鷺谷威
 - ・ 日本のデジタル楕円体高データ（DEHM）の作成Ⅱ：飛田幹男
 - ・ 干渉 SAR で捉えた硫黄島の地殻変動：矢来博司・小澤拓・村上亮・飛田幹男・中川弘之・藤原智

- ・2001 年から見られる東海地方の異常地殻変動 II
：小沢慎三郎・村上亮・海津優・畑中雄樹・鷺谷威・矢来博司・西村卓也
- ・日向灘と三陸沖における地震時滑りと非地震性滑りの相補関係
：八木勇治・菊地正幸・鷺谷威・西村卓也
- ・月平均潮位から検出された超ゆっくり地震前兆すべり
：勝俣啓・笠原稔・小沢慎三郎・Alexei Ivashchenko
- ・JERS-1/In-SAR のアファー地域への適用：Manda-Inakir, Asal-Ghoubbet リフト帯周辺の地殻変動場
：小澤拓・野木義史・渋谷和雄・村上亮
- ・D-InSAR を用いた伊豆大島島内の地殻変動の検出
：奥山哲・竹本修三・村上亮・飛田幹男・藤原智・中川弘之・矢来博司
- ・Results of time domain electromagnetic survey in Unzen Volcano, Kyushu, Japan
：Wahyu Srigutomo・鍵山恒臣・神田径・橋本武志・宗包浩志・田中良和・宇津木充・大湊隆雄
- ・航空機搭載リピートパス干渉 SAR による地殻変動検出：宮脇正典・村田稔・村上亮
- ◇筑波大学陸域環境研究セミナー談話会「第 2 回屋久島セミナー」 平成 14 年 5 月 30 日
筑波大学陸域環境研究センター
- ・等高線から得られる屋久島の地形情報：水越博子
- ◇日本写真測量学会平成 14 年度年次学術講演会 平成 14 年 7 月 4・5 日 東京国際展示場
- ・位置ずれを考慮した 2 時期の DSM による建物変化候補の抽出：神谷泉
- ・レーザースキャナーの反射強度を用いた道路の抽出の可能性：神谷泉
- ◇平成 14 年度地震研究所共同利用研究集会「富士火山の活動・テクトニクス・構造解明をめざして」
平成 14 年 7 月 8 日 東京大学地震研究所
- ・最近の富士・東海地域の地殻変動：小沢慎三郎
- ◇2002WPGM 平成 14 年 7 月 9 日 Wellington Convention Centre
- ・Crustal Deformation Around Active Faults and Their Implications for the Loading Processes of Inland Earthquakes：鷺谷威・西村卓也
- ◇日本国際地図学会平成 14 年度定期大会 平成 14 年 7 月 24・25 日 日本大学文理学部
- ・DEM を用いた尾根線、谷線の抽出：神谷泉
- ◇第 3 回国際重力ジオイド委員会会議 平成 14 年 8 月 26～30 日 ギリシア国テッサロニキ市
- ・Application of Wavelet Analysis to Detection of Systematic Errors in Marine Gravity Field Models for Japan
：黒石裕樹・Wolfgang Keller
- ◇ISPRS 第 3 部会シンポジウム 平成 14 年 9 月 9～13 日 オーストリア国グラーツ
- ・複雑な地形に適用できる航空レーザースキャナーデータのファイリング手法：政春尋志
- ◇平成 14 年度奥飛騨研究集会 平成 14 年 9 月 12 日 京都大学防災研究所穂高砂防観測所
- ・地形の数値解析を行う際の注意点と可能性：岡松香寿枝
- ◇地震予知研究協議会拡大会議 一次期計画検討シンポジウムー（第 2 回）
平成 14 年 9 月 17 日 東京大学地震研究所
- ・国土地理院の今後の地殻変動観測・研究計画：今給黎哲郎
- ◇サイエンスフロンティアつくば 2002 平成 14 年 9 月 20 日 つくば国際会議場
- ・宇宙からの地震・火山監視：村上亮

◇日本地理学会 2002 年秋季学術大会 平成 14 年 9 月 26・27 日 金沢大学角間キャンパス

- ・LWCI を用いたアジア地域の土地被覆分類の試み：佐藤浩・建石隆太郎
- ・DEM で把握した雲仙水無川流域のガリの地形変化について：佐藤浩・長谷川裕之・岡松香寿枝

◇第 11 回 GIS 学会研究発表大会 平成 14 年 10 月 22 ～ 24 日 工学院大学

- ・数値標高データを用いた地形の曲面的計算の試み ―接峰面と接谷面の作成について
：陳村理沙・佐藤浩・政春尋志

◇日本火山学会 2002 年度秋季大会 平成 14 年 10 月 22 ～ 24 日 仙台市戦災復興記念館

- ・三宅島火山の降下ピストンによる強制冷却脱ガスモデル：村上亮
- ・干渉 SAR および GPS 観測で得られた硫黄島の地殻変動
：矢来博司・小澤拓・村上亮・飛田幹男・中川弘之・藤原智
- ・2002 年 5 月伊豆半島東部群発地震に伴った地殻変動の開口断層モデル
：上田英樹・山本英二・大久保正・村上亮・上野寛・宇平幸一

◇シンポジウム 2002 「明日をめざす科学技術」 科学技術振興調整費の成果を中心として
平成 14 年 10 月 22 日 KKR HOTEL TOKYO

- ・陸域地震発生過程のモデル化：鷺谷威

◇日本測地学会第 98 回講演会 平成 14 年 10 月 29・30 日 金沢市観光会館

- ・御前崎地域水準測量にみられる年周変化の区間別特性について（序報）：今給黎哲郎・田島稔
- ・御前崎地域水準測量にみられる年周変化と大気屈折の関係：田島稔・今給黎哲郎
- ・GPS 連続観測による日本列島の上下変動の考察：村上亮
- ・GPS 長基線解に含まれる季節成分について ―南太平洋 GPS 観測網を例として―
：宗包浩志・松坂茂
- ・測地基準系のグローバルな変動について：松坂茂
- ・干渉 SAR 解析自動化に向けて I：飛田幹男・松坂茂
- ・ハロー・ウェーブレットを用いた日本周辺の海域重力場モデルの系統誤差の除去
：黒石裕樹・Wolfgang Keller
- ・ハロー・ウェーブレットを用いたマルチボイス・フレームによる二次元データの解析と復元手法の
開発：黒石裕樹・Wolfgang Keller
- ・硫黄島の地殻変動の時間変化 ― JERS-1 の干渉 SAR 解析より
：矢来博司・小澤拓・村上亮・飛田幹男・中川弘之
- ・伊豆大島島内における D-InSAR を用いた地殻変動の検出
：奥山哲・竹本修三・村上亮・飛田幹男・藤原智・中川弘之・矢来博司
- ・JERS-1 の干渉 SAR 法により得られたタンボラ火山・インドネシアの地殻変動
：小澤拓・高田亮・村上亮

◇測地学国際シンポジウム金沢 平成 14 年 10 月 28・29 日 金沢市観光会館

- ・Stability of GPS derived velocity field in Japan：海津優・山口和典
- ・A study about development of automatic baseline estimation technique in differential interferometry
：加藤敏・中川弘之・飛田幹男・松坂茂
- ・Integrated understanding of crustal deformation around the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan,
and its implications for regional tectonics and seismic hazard：鷺谷威・西村卓也・矢来博司・飯尾能久

- ◇ UJNR 第 4 回地震調査専門部会 平成 14 年 11 月 6 日 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
 - ・ An Experiment of Earthquake Occurrence Prepared by the Nature：村上亮
 - ・ Integrated understanding of crustal deformation around the Itoigawa-Shizuoka Tectonic Line, central Japan, and its implications for regional tectonics and seismic hazard：鷺谷威
 - ・ Ongoing Aseismic Interplate Slip in the Tokai Region, Central Japan
 - ：小沢慎三郎・村上亮・海津優・多田堯・畑中雄樹・鷺谷威・矢来博司・西村卓也
- ◇ 地震・火山災害からくらしを守る講演会 平成 14 年 11 月 9 日 岩手大学工学部テクノホール
 - ・ 宇宙から見たみちのくの動き ―東北地方の地殻変動―：今給黎哲郎
- ◇ 日本地震学会 2002 年秋季大会 平成 14 年 11 月 11～13 日 パシフィコ横浜会議センター
 - ・ 日本列島の変形過程の総合的理解へ向けて ―測地学的データと活断層データの矛盾は解消可能か？―：鷺谷威
 - ・ GPS 連続観測による日本列島の上下地殻変動：村上亮
 - ・ SAR および干渉 SAR 画像から推測されるアッファー地域のテクトニクス：小澤拓・野木義史
 - ・ 年平均変動速度で見た 2000 年から 2002 年にかけての地殻変動：海津優
 - ・ 東海地方の異常地殻変動の最近の状況
 - ：小沢慎三郎・村上亮・海津優・畑中雄樹・鷺谷威・矢来博司・西村卓也
 - ・ 1996 年 8 月 11 日秋田県内陸北部で発生した地震に伴う地殻変動 ― JERS-1/SAR の干渉 SAR 解析より―：矢来博司・村上亮・飛田幹男・中川弘之・藤原智
 - ・ 1914 年秋田仙北地震に伴う地殻変動：鷺谷威
 - ・ 2002 年 5 月伊豆半島東部群発地震に伴った地殻変動の開口断層モデル
 - ：上田英樹・山本英二・大久保正・村上亮・上野寛・宇平幸一
- ◇ 東海地震防災セミナー 平成 14 年 11 月 14 日 静岡商工会議所商議所会館
 - ・ 東海地域の最近の地殻変動：鷺谷威
- ◇ JUDGE Project Workshop 平成 14 年 11 月 14 日 千葉大学けやき会館
 - ・ Various behaviors of the plate boundary interface around the Boso Peninsula as viewed from geodetic data
 - ：鷺谷威
- ◇ 日中（雲南）地形学合同学術大会 平成 14 年 11 月 17～23 日 中国雲南省昆明市学府路 61 号
 - ・ Rasterization of Slope-Gradient Data Generated from Contour-based DEMs：水越博子・安仁屋政武
- ◇ 平成 14 年度国土交通省国土技術研究会 平成 14 年 11 月 19 日 品川 TOC
 - ・ 地震空白域である東海地方において、2001 年頃から見られる異常地殻変動について：小沢慎三郎
 - ・ 南太平洋 GPS 連続観測網について：宗包浩志
 - ・ ニューラルネットによる画像の分類：神谷泉
- ◇ 海上自衛隊硫黄島航空基地講話 平成 14 年 11 月 29 日 硫黄島航空基地
 - ・ 硫黄島の地殻変動：矢来博司
- ◇ ISPRS COMMISSION VII SYMPOSIUM "RESOURCE AND ENVIRONMENTAL MONITORING"
 - 平成 14 年 12 月 3～5 日 インド・ハイデラバード市
 - ・ GLOBAL LAND COVER LEGEND BASED ON FAO'S LCCS：佐藤浩・建石隆太郎
 - ・ GLOBAL LAND COVER GROUND TRUTH DATABASE：建石隆太郎・佐藤浩・朱林

- ◇ AGU 2002 Fall Meeting 平成 14 年 12 月 6 ～ 10 日 米国サンフランシスコ市
 - ・ Crustal deformation of Iwojima volcano in Japan detected by SAR interferometry
： 矢来博司・小澤拓・村上亮・飛田幹男・中川弘之・藤原智
 - ・ Rheology of the lithosphere Inferred from postseismic uplift following the 1959 Hebgen Lake earthquake
： 西村卓也・Wayne Thatcher
- ◇ 衛星リモートセンシングによる氷床－海洋－地殻圏変動のモニタリングに関する研究小集会
－ 極域における衛星重力と超伝導重力計の利用－ 平成 14 年 12 月 25 日 国立極地研究所
 - ・ 海上重力データとアルチメトリーによる全海洋重力場モデルの混合による日本周辺の重力場モデリングの現状：黒石裕樹
- ◇ 東京大学地震研究所研究集会「地震震源モデル：運動学的モデルから動力学的モデルへ」
平成 15 年 1 月 20 日 東京大学地震研究所
 - ・ GPS 観測でみえるもの、みえないもの：鷺谷威
- ◇ "Magma Intrusion Models Estimated from Geodetic Measurements" and "Slow Slip Events and Large Earthquake Occurrence Process at the Plate Subduction Zones" 平成 15 年 1 月 30 日
名古屋大学グリーンサロン東山
 - ・ Searching for Silent Earthquakes with Geodetic Data：鷺谷威
- ◇ 第 2 回つくばテクノロジー・ショーケース 平成 15 年 1 月 30 日 つくば国際会議場
 - ・ 衛星合成開口レーダーによる地表変位計測：飛田幹男
 - ・ 数値等高線データを用いた地形計測手法：水越博子
- ◇ 陸域観測技術衛星（ALOS）データ利用シンポジウム 2003 平成 15 年 2 月 20 日
東京国際フォーラム
 - ・ ALOS/PALSAR による地殻変動監視に向けて：矢来博司
- ◇ 日本地理学会 2003 年春季学術大会 平成 15 年 3 月 29 ～ 30 日 東京大学本郷キャンパス
 - ・ 地震に対するハザードマップ：熊木洋太
 - ・ 航空機搭載レーザスキャナデータを使った斜面崩壊可能性箇所の抽出：佐藤浩・関口辰夫
 - ・ DEM を用いた地形解析における効率的な補間法の開発について：頼理沙・佐藤浩
 - ・ FAO の LCCS によるグローバルな土地被覆ガイドライン凡例の提案：佐藤浩・建石隆太郎

【地方測量部等】

- ◇ 平成 14 年度管内技術研究発表会 平成 14 年 7 月 9・10 日 神戸国際会議場
 - ・ GIS に対応したベクトル地形図：相澤望
- ◇ 第 112 回地球電磁気・地球惑星圏学会講演会 平成 14 年 11 月 11 ～ 14 日 電気通信大学
 - ・ dIdD 磁力計による地磁気連続観測システム：湯通堂亨

※発表学会名、発表日、発表場所、発表課題名、発表者の順に掲載